



2023年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ハピネス・アンド・ディ

コード番号 3174

URL <http://www.happiness-d.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田 篤史

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 前原 聡

(TEL) 03-3562-7521

四半期報告書提出予定日 2023年1月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第1四半期の業績 (2022年9月1日～2022年11月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第1四半期	2,717	△8.3	△197	—	△203	—	△154	—
2022年8月期第1四半期	2,963	—	△137	—	△130	—	△99	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第1四半期	△60.76	—
2022年8月期第1四半期	△39.11	—

(注) 1. 2022年8月期第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用するため、前第1四半期会計期間の売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第1四半期	10,621	2,041	18.6
2022年8月期	9,258	2,214	23.2

(参考) 自己資本 2023年8月期第1四半期 1,982百万円 2022年8月期 2,153百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2023年8月期	—	—	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2023年8月期の業績予想 (2022年9月1日～2023年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,733	2.9	384	84.6	374	71.5	196	58.0	77.07
通期	14,842	9.0	401	111.0	375	96.3	168	88.7	66.06

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年8月期1Q	2,571,100株	2022年8月期	2,571,100株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年8月期1Q	26,109株	2022年8月期	28,009株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年8月期1Q	2,544,512株	2022年8月期1Q	2,549,329株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、行動制限や入国規制の緩和等により緩やかな景気回復が期待されましたが、ロシア・ウクライナ情勢の長期化とともに、急激な円安進行とエネルギー価格の上昇等を背景に諸物価の高騰が続いております。小売業界におきましては、節約志向の高まりによる消費活動の冷え込みが懸念され厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社は、投資戦略を中心とした3ヵ年の中期経営計画の2年目を迎えて、アプリと社内システムの連携を図るDX投資、外訪型・在宅型のセールスセンター構築へ向けた人材投資、プライベートブランド（PB）商品の開発パイプライン構築、オンラインとオフラインを融合させたOMO型店舗の準備、事業の成長とサステナビリティの融合を目指した社会貢献への取組み等を引き続き推進するとともに、外部環境の変化に応じて計画数値の一部見直し等を行いました（2022年10月25日開示「中期経営計画の進捗及び計画数値の見直しについて」参照）。

DX投資といたしましては、店舗DXの中心となる「ABCシステム(注)」が全店で稼働いたしました。これによりお客様のスマートフォンアプリを店内ビーコンが検知することで、当社CRMにおいて統合されたお客様それぞれの購買履歴等の確認が容易となり、その場のお客様それぞれにカスタマイズされた接客・商品提案等が可能となります。お客様の来店をチェックインとして感知し、お客様と販売スタッフの一人ひとりのつながりのサポートを実現してまいります。

(注)ABCシステム：お客様のアプリ（Application）、店内ビーコン（Beacon）、顧客情報管理システム（Crm）の頭文字をとった社内システムの総称。

人材投資といたしましては、研修プログラム全般を再編し、ジュエリーコーディネーター等の資格取得支援の強化に取り組みました。

店舗展開といたしましては、10月に土岐店（岐阜県）を出店いたしました。また、既存店舗の活性化として、10月に北見店の移転リニューアルを実施いたしました。これにより、11月末現在の店舗数は87店舗となりました。

営業施策といたしましては、SNSによる企画広告配信等を強化し、スマートフォンアプリの会員獲得にも努めるとともに、店頭におけるアプリ10万人ダウンロードキャンペーンやブラックフライデーセール等の販促企画を実施いたしました。また、ライブ実演販売の配信を継続しオンラインによる販売の強化に努め、PB商品としてアパレル商材となるダウンジャケットの販売も開始いたしました。

商品部門別の売上の状況は以下のとおりです。

- ・宝飾品は、高価格帯ジュエリーは堅調に推移したものの、中低価格帯ジュエリーが価格上昇による影響を受けたことで、売上高 524,758千円（前年同期比3.6%減）となりました。
- ・時計は、国産時計については、MD見直しと販売の強化により好調でありましたが、価格上昇により海外ブランド時計が全般に落ち込んだことで、売上高 585,627千円（同22.8%減）となりました。
- ・バッグ・小物は、一部で好調なブランドがみられたものの、海外ブランド全般に価格高騰による買い控えの傾向が顕著となり、売上高 1,607,260千円（同3.1%減）となりました。

<商品部門別売上高>

	当第1四半期累計期間	前年同四半期
宝飾品（千円）	524,758	544,803
時計（千円）	585,627	758,793
バッグ・小物（千円）	1,607,260	1,660,240
合計（千円）	2,717,647	2,963,837

なお、上記のほか、雇用調整助成金 1,101千円を特別利益に計上いたしました。また、特別損失として、店舗の改装に伴う固定資産廃棄損 1,967千円を計上いたしました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高2,717,647千円（前年同期比8.3%減）、営業損失197,379千円（前年同期営業損失 137,441千円）、経常損失203,601千円（前年同期経常損失 130,524千円）、四半期純損失154,619千円（前年同期四半期純損失 99,712千円）となりました。

当第1四半期累計期間における売上高総利益率（総額表示ベース）につきましては、27.7%と前年同四半期24.2%から3.5ポイント向上いたしました。

なお、当社の業績は、クリスマス時期を中心とした年末年始商戦が最繁忙期であり、四半期決算としては第2四半期（12月～2月）の占める比重が高くなっております。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、8,530,683千円となり、前事業年度末と比較して1,226,576千円増加しております。これは主として、売掛金が140,940千円増加、年末年始商戦に向けた商品確保により商品が969,042千円増加したことが要因であります。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、2,091,123千円となり、前事業年度末と比較して136,416千円増加しております。これは主として、建物が22,253千円増加、工具、器具及び備品が16,588千円増加、ソフトウェアが41,772千円増加、投資その他の資産のその他が58,388千円増加したことが要因であります。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、4,792,969千円となり、前事業年度末と比較して1,338,770千円増加しております。これは主として、支払手形及び買掛金が626,242千円増加、短期借入金金が600,000千円増加したことが要因であります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は、3,787,699千円となり、前事業年度末と比較して197,927千円増加しております。これは主として、長期借入金金が181,391千円増加したことが要因であります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、2,041,137千円となり、前事業年度末と比較して173,704千円減少しております。これは主として、利益剰余金が173,692千円減少したことが要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月14日に公表いたしました2023年8月期の第2四半期（累計）及び通期の業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,816,624	1,839,402
売掛金	729,842	870,782
商品	4,579,428	5,548,471
貯蔵品	75,931	82,785
その他	102,279	189,240
流動資産合計	7,304,106	8,530,683
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	728,214	750,467
構築物（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	183,289	199,878
有形固定資産合計	911,503	950,346
無形固定資産		
ソフトウェア	20,786	62,559
ソフトウェア仮勘定	10,912	1,100
無形固定資産合計	31,698	63,659
投資その他の資産		
敷金及び保証金	651,603	658,828
その他	359,901	418,289
投資その他の資産合計	1,011,504	1,077,117
固定資産合計	1,954,707	2,091,123
資産合計	9,258,813	10,621,806

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	664,952	1,291,194
電子記録債務	250,254	403,568
短期借入金	—	600,000
1年内返済予定の長期借入金	1,776,749	1,807,943
未払法人税等	84,470	16,883
賞与引当金	86,000	155,531
契約負債	29,554	39,023
資産除去債務	—	3,970
その他	562,218	474,855
流動負債合計	3,454,198	4,792,969
固定負債		
長期借入金	2,930,551	3,111,942
資産除去債務	352,908	352,479
長期未払金	306,313	323,278
固定負債合計	3,589,772	3,787,699
負債合計	7,043,971	8,580,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,785	343,785
資本剰余金	325,528	326,476
利益剰余金	1,510,636	1,336,943
自己株式	△19,586	△17,873
株主資本合計	2,160,363	1,989,331
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6,396	△6,653
評価・換算差額等合計	△6,396	△6,653
新株予約権	60,875	58,459
純資産合計	2,214,842	2,041,137
負債純資産合計	9,258,813	10,621,806

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)
売上高	2,963,837	2,717,647
売上原価	2,041,426	1,769,894
売上総利益	922,410	947,752
販売費及び一般管理費	1,059,852	1,145,132
営業損失(△)	△137,441	△197,379
営業外収益		
受取利息	5	1
受取配当金	866	944
受取保険金	72	88
助成金収入	11,512	—
その他	1,166	538
営業外収益合計	13,623	1,573
営業外費用		
支払利息	6,450	6,577
その他	255	1,218
営業外費用合計	6,705	7,795
経常損失(△)	△130,524	△203,601
特別利益		
雇用調整助成金	7,037	1,101
特別利益合計	7,037	1,101
特別損失		
固定資産廃棄損	5,525	1,967
特別損失合計	5,525	1,967
税引前四半期純損失(△)	△129,012	△204,467
法人税、住民税及び事業税	5,133	6,844
法人税等調整額	△34,432	△56,693
法人税等合計	△29,299	△49,848
四半期純損失(△)	△99,712	△154,619

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による会社等の買収)

当社は、2022年11月28日開催の取締役会において、株式会社A b H e r i (アベリ)の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し2022年12月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 株式取得に係る事業の内容

取得企業の名称：株式会社ハピネス・アンド・ディ

被取得企業の名称：株式会社A b H e r i

取得した議決権の比率：100%

事業の内容：宝飾・貴金属の製造、卸売、小売業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、インポートブランド品を中心とした「ブランドショップハピネス」「Ginza Happiness」をショッピングセンター中心に全国87店舗展開しております。株式を取得いたしました株式会社A b H e r iは、ジュエリーを自社工房でデザインから一貫して製作し、卸売りに加えて都市型直営店及び通販サイトでの販売において、強いブランド力を有しております。

子会社化することで、事業領域の拡大とともに従来と異なる顧客層・マーケットの獲得が見込まれ、企業価値の向上につながるものと考えております。

(3) 企業結合日

2022年12月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

2. 取得する株式の取得価額

株式会社A b H e r iの普通株式 221,437千円

3. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 30,802千円

5. 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

6. その他

本株式取得により、当社は、2023年8月期第2四半期より連結決算に移行する予定であります。